

青木秀雄先生のご定年によせて

廣 嶋 龍太郎

青木秀雄先生は、明星大学人文学部心理・教育学科をご卒業後、長年にわたって明星大学を支えて来られた。大学卒業後の4月から教育学専修助手補として就職され、アフリカのコンゴ（赴任後にザイルに改称）ムソシ明星小学校に勤務された。帰国後は明星大学学長秘書室に勤務され、明星大学大学院を修了された。人文学部心理・教育学科（後の教育学部教育学科）に教員として赴任された後は、教育学専修主任を務め、教職センター長や通信教育課程長などの要職を歴任された。本来であれば、先生のすべての活動をご紹介すべきところではあるが、ここでは筆者とかかわりの深い明星大学大学院と教育学部教育学科教科専門（社会）コースにおけるエピソードに絞ってご紹介したい。

私が初めて青木先生の名前を知ったのは、明星大学大学院の博士前期課程に進学した時期であった。当時、青木先生は心理・教育学科（教育学専修）の助教授として学部の授業をご担当されており、心理・教育学科からの内部進学者には、学部時代に青木先生のご指導を受けた者もいた。彼らからは先生の思い出をよく耳にしたし、大学院で先生のご担当の授業がないことを残念がる者もいたのが忘れられない。大学教員への道が極めて狭き門であった院生達にとって、同窓の先生の実在は希望であったと思う。

その後、青木先生は明星大学教育学部教育学科が発足した2010年4月から教科専門（社会）コースの代表を務められた。当時、社会コースの専任教員は先生と私の2名であり、試行錯誤しながら個性あふれる学生たちを指導した記憶があるが、私の経験不足もあって周囲からは厳しいご意見もいただいた。そんな時、青木先生はいつも学生と大学との間にあって、問題の解決を見守ってくださった。おそらく教職センター長などを歴任されたベテランの青木先生でなければ、コースをまとめるのは不可能であっただろう。その後、特任の先生方のご尽力や専任教員の人数増があり、何とか卒業生を小学校、中学校、高等学校等の教員として輩出することができたが、対話を通じて、常に学生たちの立場を考えて接してこられた先生の姿勢には、学ぶべきところが多かった。

ご研究については、卒業論文で古学派の伊藤仁斎を研究されていたそうであるが、ムソシ明星小学校で勤務された後は、フランス、イギリスに留学し、明星大学大学院ではイギリスの民衆教育史を研究された。これらは後に「19世紀中葉の英国におけるウェスレー派メソディズムの教育政策と民衆学校教育について」と題する一連の論文として、明星大学教育学研究紀要に15本が発表されている。また、文化人類学者の川喜田二郎が考案した発想法であるKJ法にも造詣が深く、近年では「KJ法を用いた学習による思考深化の研究」と「質的研究のためのKJ法の科学性に関する研究」にも取り組まれた。その成果は、教育

学研究科と教育学部のFDでも披露されたため、我々も授業改善のために学ぶ機会をいただいた。

青木先生は明星大学創設時に児玉九十先生が校長を務める明星高校に在学されており、明星大学に進学して3期生（教育2期生）として学ばれた。先生は明星大学の50年の歴史とともに歩み、明星学苑の教育方針である「実践躬行」の精神をもって「世界に信頼される人材」として活躍され、校訓「健康・真面目・努力」を体現されていた。ご定年を迎えることは誠に残念ではあるが、ご退職後はゆっくりと海外旅行を楽しみたいとおっしゃっていた先生のご健勝とご多幸を心よりお祈りいたします。